

A. F. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校1年生の冬にオーストラリアへ1か月の短期留学をしたことをきっかけに、長期間海外に滞在したいと思っていた。さらに、母が大学卒業後、アメリカに留学していたこともあり、幼い頃から大学での留学を勧められていたため、入学時から長期留学することを考えていた。京都に住み始めてから、本校への留学生や同志社大学に留学しているスタンフォード大学からの学生を含め、様々な留学生と出会い、彼らの大学生活や経験を聞くうちに、自分もより広く新しい世界に飛び込んでみたいと思う気持ちが強くなった。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

出願書類提出までに十分な時間が無かったため、TOEFL-ITP と IELTS の2種類の受験に絞り、過去問題を集めた問題集を購入し、同じものを何度も繰り返し学習した。

③ 留学決定から出発までの準備期間

アメリカ渡航前にさまざまなワクチンを打たなければならず、大阪の病院へ何度も足を運ばなければならなかったり、必要書類を集めたりと大変なこともあったが、友人や家族の協力があり、なんとか準備を整えることができた。

④ 現地到着後

安い航空券を予約したため、韓国とダラスで乗り換えがあり、留学先まで24時間の長旅となった。アメリカ到着日には留学先の学校から空港へ迎えがくるはずだったが、渋滞のために遅れていたらしく空港で2時間ほど待った。携帯は使えず、公衆電話以外連絡手段がなかったため非常に不安だった。オリエンテーション期間は1週間で、ほぼ毎日朝から夕方まで続いた。まだ英語に耳も慣れておらず、新しい環境での生活にも慣れておらず、人生で最も時間の流れが長く感じた。一方で、同時期からの留学生やオリエンテーションリーダーの現地学生と交流できる良い機会だった。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

◆ 授業内容、課題、試験

全ての授業が少人数で行われ、教師との関わりが強かった。ESLの教師は大学の教授より大学院生が多く、気軽に話しやすく、物怖じすることなく質問や要望を言うことができよかった。ReadingやListeningの授業はクラス分けもされているのだが、自分に合ったレベルで勉強できた。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

◆ 履修科目

- Child Development: Birth Grade 4

教職を履修しているので教育専攻の授業を取ろうと思っていた。この授業は人間が生まれてからおおよそ小学校低学年までどのように成長するかを学ぶ。受精卵がどのように形成されるのかから絵本が子供に与える影響など、さまざまなトピックについてディスカッション、プレゼンテーション、テストをしながら展開していく。

・ History of Rock, Pop and Soul

他の科目を履修していた際にアドバイザーが「以前の留学生がこの授業を履修してよかったと言っていた」と勧めてくれたため取ることにした。アメリカの音楽の歴史について、ブルースから近代の音楽までを学ぶ。課題が多く大変だったが、授業中実際に音楽を聴いたりビデオを見ることが多く楽しかった。

◆ 授業、レポート、定期試験

正規授業は課題、プレゼンテーション、ディスカッション、テストが多く盛り込まれており、ついていくのに必死だった。どちらの授業にもサポートしてくれる学生をつけてもらい、毎週テスト対策や自分だけでは理解できなかった部分を解消したりしていた。レポートは毎回提出前に図書館へ行ってチェックしてもらっていた。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

毎週月曜日に Japanese Table という日本語や日本文化を学びたい学生と日本人留学生の交流の場があり、文法理解を手伝ったり、ことわざについて話し合ったりした。英語を教えてもらうことはあっても、自分が日本語を教える機会はそれまで少なかったため新しい経験だった。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

2学期とも寮での生活だった。大学の敷地内に寮があるため、教室まで5分程で行くことができ非常に便利だった。全ての建物にセントラルヒーティングが設備されているため、建物内は冬でも非常に暖かく、夏の格好で過ごすことができ快適だった。寮生は全員ミールプランへの加入が義務で、毎日3食バイキング形式で食事をするができる。初めのうちはさまざまなバリエーションに心躍ったが、そのうち飽きてきて学外へ食べに行くことが多くなった。

⑨ 長期休暇の過ごし方

冬休みにはホームステイをしたり、留学生の友人たちと旅行へ行ったり、母が会いにきたりと充実していた。春休みには隣の大学の学生も含め11人でフロリダまでロードトリップをし、色々な都市にも寄り、それぞれの違いにアメリカの大きさを改めて感じた。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

なし。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

友人と過ごした日々全てが鮮明に思い出される。授業後にカフェや買い物に行ったり、課

題が終わらなくて共に朝まで勉強したり、ジムに行ったり、ストレス解消に公園へ散歩に
いったりと、何気ない日常が思い出に残っている。国籍は違えど、1つの共通の言葉で繋が
れることを経験できた。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学先の手違いで日本人と同じ部屋で暮らすことになり、お互いに納得して部屋を移動で
きるようにレジデンスオフィスに頼んだのだが、対応が非常に遅かったり、移動先のルー
ムメイトと生活習慣が合わなかったり、辛い時期があった。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

お店での接客に驚いた。チップ制のないお店では携帯を触っていたり、店員同士話してい
るのは普通で、何か食べたり電話で話しながら接客する姿が多く見受けられた。それに対
し、レストランなどのチップ制のある店の店員は非常にフレンドリーで、何度も担当のテ
ーブルに来ては、食事はどうかや、飲み物のおかわりはどうかと話しかけてくる。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点：規模の小さい大学で、コミュニティーを作りやすい。少人数の授業が多く、
教師も学生の学習に対して非常に協力的。カフェも図書館も深夜まで開いていて便利。ど
の建物でもWifiが使える。

悪かった点：レジデンスオフィスが留学生に対しての理解に欠ける。アドバイザーが授業
内容に関する知識があまりなかった。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンと電子辞書は絶対に持参したほうが良い。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

自分ではどれだけ語学力が向上したか測れないが、留学先の友人たちが私の英語力が留学
当初と全然違うと言っていたり、1年半ぶりに会ったアメリカ人の友人が私の変化に驚いて
いた。留学前は何かと家族や友人の支えがあったが、全く新しい環境で、自分の力で留学
を乗り越えたという自信がついた。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学では日本では経験できない新しいことにたくさん出会います。もちろん楽しいことだ
けではなく、辛いこともあります。きっと一生忘れられない貴重な時間になると思いま
す。何事にも挑戦するつもりで頑張ってください。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

教職を履修しているため、もう1年大学に通うつもり。その後の進路はまだ決めていない
が、英語が使える仕事に就きたい。

V. 写真



友人と Pittsburgh のプロ野球チーム Pirates の試合観戦に行った。アメリカでは国歌斉唱で試合が開始され、日本ともとは全く違う雰囲気だった。大好きな友人に囲まれ、天候にも恵まれ、Pirates も勝利し、幸せな日だった。



春休みのロードトリップで Atlanta に寄った時の写真。コカコーラの工場があり、そのコカコーラ社創始者の銅像と記念写真を撮った。片道 20 時間程の旅だったが、色々な都市を回り楽しかった。

S. M. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私の母・祖父は海外で働いていた経験があった為、幼少期から海外の話に大変興味を持っていました。しかし海外に行きたいという思いがありつつも海外へ行くことに対する不安が多く、なかなか留学への決断へ踏み出せずにいました。そんな私を変えたのは留学経験のある大学の友人の話と大学1年生の時に参加した TOEFL CAMP でした。英語英文学科に入学したとき、短期留学を含め多くの方が留学経験を持っていました。話を聞きながら、困難や海外異文化を経験した友人を尊敬する眼で見っていました。この憧れは「自分もいつか友人のように海外に行って成長したい」という思いに繋がりました。二つ目のきっかけ TOEFL CAMP では実際にネイティブの先生（当時はアメリカとオーストラリア出身の先生でした）と話していく中で、「知らないことを知れる」嬉しさがありました。「幅広い知識を手に入れて海外から日本を見てみたい」「海外の学生と席を並べて勉強したい」これらの強い思いから留学への思いを抱きました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私はまず、留学をする為には TOEFL が重要だと思いました。そこで、TOEFL ITP の本を買い、答えを見ながら毎日リスニングをしていました。（私の場合通学時間往復3時間だったので今思うとすごい時間数です）それに加え会話力をつける為、ENGLISH CAMP 等国際交流センターがやっているイベントはほぼ全部参加しました。学校の授業以外で自分のアルバイトのお金から英会話教室・オンライン英会話をつけました。一番過酷だったのは、最後の TOEFL を受ける前の夏休みです。毎日7時間学校の図書館に引きこもってひたすら勉強していました。この時は主に英語のニュース、好きな TV show を英語で観て、面白そうな表現をメモに書きました。私がここまで頑張れたのは友人のおかげだと思っています。私には English Camp 等で出会った同じ目標を持った友人がいました。毎日勉強したことを連絡しあい、モチベーションを高めていました。そのおかげで友人ががんばっているから私も負けられないと思い必死に勉強できました。点数がなかなか上がらず辛い思いをしたことは何度もあります。しかし、友人がいたからこそ私は留学できたのだと思います。留学への勉強は個人戦のように感じられますが団体戦です。是非とも交流会等に参加し同じ目標を持った友達を作ってください！！

③ 留学決定から出発までの準備期間

ビザ申請手続きは正直言って大変だと思いました。失敗したら多額のお金を失うので怖かったです。当時初めてだからというのも理由で慎重に入力しました。入力さえ終わればかなりスムーズに終わります。語学の勉強はラジオ英会話という NHK のラジオ講座を聞いていました。それに加え世界の宗教や日本についての本を読むようにしていました。もっと英語の勉強をするべきだったと一番後悔しています。

④ 現地到着後

私がピッツバーグに着いたのはちょうどお盆の時だったので飛行機の値段が大変高かったです。普通に検索をしたら、例えば全日空で往復 30 万はかかりました。一番安い飛行機を探し、見つけたのは大韓航空（関空→羽田→韓国→ダラス、アメリカ→ピッツバーグ）の長いフライトで 18 万円でした。飛行機は早めに取りましょう。私は 5 月にはチケットを買っていましたがそれでもこの値段でした。私は同女からチャタムと一緒にいく人がいたので現地の空港に着くまでそれほど苦勞はしませんでした。しかし、到着したとき迎えが誰も来ていなかったのが正直焦りました。というのも、時間帯は夜 7 時だったからです。1 時間待った後、チャタムの国際交流センターの方が来たので安心しました。（渋滞で遅れたそうです。しかし、ピッツバーグの夜景が見られたので、よかったです）到着して 1 週間はオリエンテーション期間です。この時期に多くの友達が出来ました。というのも、このオリエンテーションで多くのイベントがあります。例えば寮のみんなでピザを食べたり、国際交流センターの人が学校案内をしてくれたり、などなどです。案外オリエンテーションの時間は長かったので、チャタムのことがよく分かりました。この時に、携帯電話を契約している人や、銀行口座を開いている人もいました。しかし、国際交流センターの方がついてきてくれるので心配しなくても大丈夫です。私は、オリエンテーションの時、ピッツバーグ観光をしていました。ピッツバーグは都会なので何でもあります！！

⑤ 語学研修期間

秋留学のため語学学校には通っていません。

⑤ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学はかなりきれいでした。小さな大学でしたが、スポーツジムがあります。夜 11 時くらいまでやっているのびっくりしました。けっこう本格的なジムでロッククライミングやスカッシュコート、バスケットやバドミントンも出来るような大きなジムでした。またスイミングプールもあります。毎週月曜日と木曜日にズンバが大学で経験できるのでダイエットの為に参加していました。また、ヨガも時々やっていたので参加したらいいと思います。チャタムはイベントが豊富だと思いました。例えばピッツバーグでやっているブロードウェイミュージカル（例えば美女と野獣）は 10 ドルあれば観られます。パイレーツの野球ゲームも 10 ドルで観られたので金銭的にも助かりました。そして何よりもチャタム ID はバス料金タダです。これさえあれば空港までもただなのでかなり便利です。チャタム大学は他大学に比べ緑豊かな大学です。大学内にリスがいます。ID カードで寮に入るので、セキュリティはしっかりしています。図書館も基本夜 12 時までやっているのび勉強できる環境は整っています。また、チャタム ID さえあればほとんどの美術館の入場無料です。ぜひ活用してください。

◆履修科目

◆授業、レポート、定期試験

・ Business Foundation

一番辛かった授業です。最初に分厚い辞書みたいな教科書を買わされます。しかし、教科書の内容は高校の社会の授業をしっかり受けていた人にとっては簡単です。ただ、この授業はマニュアルに沿ったことをするのではなく、実践的な事を重視します。例えばほぼ毎週プレゼンという名のグループコンペがあります。このコンペ、優勝したら期末テストなしという特典があります!!!最初の授業で3~4人くらいのグループに分かれて実在する会社の事業を1学期間にかけて説明します。私のグループは Neiman Marcus という会社でした。事業というと本当に簡単に感じますが、教授の質問がけっこう意地悪なのでなんでも答えられるようにしなくては行けなかったのが大変でした。また、ジョブシャドウというインターンみたいなものも必須です。自分でアメリカの会社にコンタクトをとらなくては行けなかったのが大変でした。

⑥ クラブ、課外活動、ボランティア活動

ピッツバーグ大学の日本サークルに入っていました。そこではスイカ割やたこ焼きパーティーがあつて楽しかったです。ピッツバーグ大学には結構イベントがあつたので、ある時期は週4ペースで行っていました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私は Woodland Hall でした。Woodland は図書館にも café にもクラスルームにも近く大変便利な場所です。しかし、食堂が遠かったのが（といっても7分程度）2月は食堂に行っていません（Pittsburgh は2月の気温-20度です。）ルームメイトは韓国人の子で、二人部屋でした。私の部屋は本当にラッキーなことにトイレとシャワーがありました。Woodland は木をベースにした寮だったので落ち着きました。4階は大学院生が住んでいるので大変静かです。1階は共同スペースがありテレビやビリヤードが出来ます。私は一人で勉強するのが寂しかったので1階の共同スペースでよく勉強していました。その為、寮の住人にすぐ顔を覚えてもらい友人がすぐ増えました（Woodland に住んでいる人はほぼ全員知っていると思います）勉強の手を止め、通りかかる人とお話をしていました。冬は暖房がかなりきいているので毛布なしでも大丈夫でした。Woodland に関してはエレベーターがあつたのでかなり便利です。各フロアにキッチンがあつたのでよく自炊していました。よく通る人に「何を作っているの？」と聞かれ、会話につながられました。

大学にはミールプランがありました。私は最初 Gold Plan という毎日食べられるものになりましたが、春学期は120回ものを選びました（しかし、最終的に60回余りました）ご飯は平日のランチタイムに毎日シェフが日替わりのものを作ってくれます。（一回だけ寿司や韓国料理などもありました）しかし、それ以外はたいてい同じようなメニューでカロリーが高いです。私はだいたい11月で飽きてしまい春学期はほとんど自炊をしていました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

チャタムは留学生を対象にした Washington DC Trip があります。値段は100ドルとお手頃でした!!美術館もほとんどタダだったのでお手頃です。11月にはナイアガラの滝に友

人の車で行きました。かなり寒かったので滝下まで行く船には乗れませんでした。Thanks Giving は友人と Chicago へ旅行に行きました。Chicago は Black Friday にむけて人がかなり多かったです。日本人をよく見かけました。冬休みは、学校はありませんが寮には住めます。ただ暇だと思うので旅行に行きました。Disney World (Florida) →Atlanta→New Orleans にいきました。Disney World は4つのテーマパーク全部行きました！やはり本場のディズニーは最高で迫力があります。Atlanta では友人の家にとまりました。私は「風と共に去りぬ」の大ファンだったのでテンションがかなり上がりました。New Orleans は私のお勧めです。特に夜の French Quarter は party みたいな感じで楽しかったです。音楽も聞けるのでお勧めですよ！！春休みは NY とフィラデルフィアにいきました。NY からフィリーはバスで6ドルとかなりお手頃です。NY は全てが高かったです。ご飯も20ドル以上絶対にしました。しかし、見るところがいっぱいあるので楽しいですよ！フィリーは歴史が多くあったので大変きれいでした。そして帰国前はサンフランシスコへ一人旅をしました。アメリカの中で一番良かったです。私は「フルハウス」という TV Show のファンだったのでロケ地を全部まわりました。一人だったので不安でしたが、サンフランシスコは美しく、人柄も良いので将来住みたいと思ってしまいました。やはり、アメリカを楽しむためにはお金が必要です。旅行におそらく40万円は使いました。しかし、各旅行自分と違う国籍の友人と旅行した事は私にとって一番大きかったです。お互いの文化や歴史について話し、視野が広がったと思います。旅行の瞬間の一つ一つが思い出です。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

エントリーシートを何枚か書いていました。私が一番思ったのは留学前に証明写真を用意すべきだということです。ピッツバーグではあまりプロの方に写真を撮ってもらえるようなところがなく、証明写真もパスポートのものしかコピーできませんでした。その為私の場合は友人に写真を撮って、パスポートの写真を証明写真サイズに切りました。やはり、ちゃんとしたものを出すべきだと思うので日本にいる間に撮った方がいいです。他にはシャチハタとハンコを絶対に持っていきましょう。履歴書には絶対に必要です。就職活動は帰ってからでもできますが正直大変です。私は留学で頭がいっぱいで就活への取り組みを留学前あまりしませんでした。その為、今大変苦労しています。留学をする予定がある人は自己分析など出来る事は留学前にしましょう！そうしたら、少しは楽になると思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

本当に些細なことが楽しかったです。友達とご飯を食べに行ったり、ショッピングしたり、映画を観にいたり。私は本当に友人に恵まれていたと思います。国際的な絆が出来た事は私にとって本当に貴重な経験で、来年留学先で会った友人と会う予定です。最も思い出に残っているのは帰国する最後の1週間です。私は友人一人一人と毎日遊びました。別れる際に「バイバイ」という度「次はいつ会えるのだろうと」切ない気持ちになったのを未

だに覚えています。ピッツバーグを出る日、友人が私の部屋まで挨拶をしにきてくれました。本当にさびしかったです。また、ピッツバーグで出会った友人達と再会したいと思っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

言葉の壁が一番大きかったです。留学に来て最初に思ったのは他の国籍の留学生たちはかなり英語が流暢です。なかなか最初はコミュニケーションが取れず自分に自信を持てずになりました。しかし、留学に来ている以上話さないという選択肢はなかったです。友人を作る為に土日はたいていイベント等に参加する事を心がけました。そうすることで多くの友人を作ることが出来ました。私が留学生活で一番心がけたことは勉強だけで終わらせないという事です。確かにアメリカの大学はかなりの宿題がでて、勉強もしんどいです。しかし、留学に来ている以上コミュニケーションをとるという事も大切だと思ったので土日は出来るだけ友人とショッピングに行くことを心がけました。

二つ目に辛かった事はビジネスの授業でのジョブシャドウです。実際にアメリカビジネスを学ぶために必須のものでした。実際に自分でアメリカの会社と交渉していかなくてはならなかったため、プレッシャーを感じました。ビジネスメールなど友人に手伝ってもらいながら頑張って書きました。アメリカの人は日本人よりもメールを返すのが遅いのでなかなかジョブシャドウの日程等を定めることが出来ませんでした。私の場合は 2 つの会社にもドタキャンをされたのでかなりショックを受けました。なかなか、ジョブシャドウのレポートが出せず苦労しました。しかし、なんとかこの貴重な経験をする為諦めずに交渉し続けた事でジョブシャドウが経験できました。その会社はチャタムの卒業生が起業した会社でした。ライフコーチという職業でかなり興味深かったです。実際にジョブシャドウを経験して実際に「働く」とはなにかを感じ、そして自分のやりたいことは何かを改めて考えることが出来たと思います。

3つ目は就活です。授業が忙しいにも関わらず ES を書かなくてははいけなかったため大変でした。また、周りが就活で説明会に行った情報など聞くと焦りが高まり辛かったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。他は、何と言っても日本食です。Chatham の近くは日本食マーケットがありますが、かなり高いです。(例えば醤油 700 円) 出来るだけ持ち運べる日本食は持っていきましょう。私の場合は米 5 キロ、お茶漬、味噌汁を持っていきました。服は正直言ってあまりいらぬです。チャタムでは、3枚くらい T シャツをくれます。チャタムのロゴ入りなので、ファッションにこだわらないのであれば、それを着たらいいと思います。というのも、アメリカでは正直言って日本のおしゃれな服は浮きます。チャタム T シャツは日本で着ていたらダサいですが、チャタムで着ていても全く浮きませんし、結構来てい

る人がいます。また、ピッツバーグは服に関しては税金がかからないので安いです。友達とのショッピングなどで服はたくさん買うとは思うのでいらないと思います。しかし、パーティーなどで着るきれいめのワンピースとヒール靴は一着持っていったらかなり便利です。携帯も一応持っていくべきです。WIFIがあるのでチャタム大学内なら使えます。現地でプリペイド式の携帯を Target というイオンみたいな店で買いました。本体 10 ドルで、1 年間 100 ドルで買えます。（一か月約 \$ 8 という事でかなり安いです）。あと、日本からのお土産を忘れないでください。私は扇子を持っていきましたが、今考えると 100 円ショップをもっと活用すべきだと思いました。特に大阪の心斎橋にある 100 円ショップはいろいろそろっているのでいっぱいお土産を買って友達作りをするきっかけにしてください。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は上がったことを信じています(笑)しかし、私が一番思うのは留学当初は自分の英語に自信がなく自分から人に話しかけたり、意見を言ったりできなかつたのですが、次第に自信がついていき自ら発言する機会が増えました。その為、最終的にサンフランシスコへ一人旅が出来るくらいになりました(笑)私が留学で変わったことは一つ目は自ら動く行動力と精神的な強さです。日本と違いアメリカは察しの文化ではありません。自分の思っている事を発言し、自分で行動しなくては何も始まらないのです。最初はそれに慣れず、戸惑いました。しかし、これらの力がついたことで今就職活動に役になっているし、これから社会に出るうえでも役に立つのではないかなと思っています。二つ目は価値観です。アメリカは年齢関係なく夢を追いつける人が多いと思いました。私の学校には 48 歳のおじさんが勉強していました。その人は 2 年後農業を経営するとキラキラした目で話していました。また、私の友人も卒業後のキャリアビジョンがしっかりしており、大変刺激をもらいました。年齢が何歳であっても夢を持って頑張る事はカッコいいと思い自分も夢に向かって頑張ろうと思いました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

協定留学で合格する秘訣はまず、留学への強い思いです。「なぜ、留学をしたいのか。留学をした後の自分はどうか成長しているか。」こう問いかけた時、しっかりとした思いを持っていればいるほどモチベーションを保てるし、協定留学への合格する可能性が高まります。始めに書くとしたら、私の当時の成績から協定留学の挑戦は不可能に近かったです。学校の成績は下から数えたほうが早かったし、TOEIC も入学時 300 点台前半でした。しかし、留学への強い思いはだれにも負けないものでした。当時続けていたバイトそして部活を辞めてまで協定留学に集中投資したので、合格した時は大変うれしいものでした。二つ目は情報力です。受け身で情報を得るのではなく、自分で考え行動し、留学の情報を得ることが一番強いと思います。私は積極的に国際交流センターに行って、留学資料を調べ、留学についてスタッフの方に自分で聞きに行きました。また、国際交流センターが主催するイベント情報を瞬時に察知し、積極的に参加しました。最後に、私が一番思ったのは国際交流センターの方のサポートが一番大きかったと思います。留学への相談を何度ものっても

らえ大変助かりました。留学の TOEFL のスコアが取れた時、最初に報告したのも国際交流センターでした。

熱い思いがあるにもかかわらず、TOEFL がなかなか上がらないことが理由で辛い思いを何度もしました。しかし、ここで頑張って協定留学したからこそ、現地の生活でも困難に立ち向かえたのだと思います。正直言って、アメリカの生活の方がもっとつらい事があり、涙を流しました。しかし、その分うれしいことそして国境を越えた国際的な絆が出来ます。私は帰国後も留学で出来た友人との交流があります。また、この留学は私が人生で一番頑張った事そして自分の限界にチャレンジしたことで、帰国後は達成感を持って帰ってきました。言葉では大変表現がむずかしいですが、どうか、この貴重な経験が出来るチャンスを逃さないでください！！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

海外に関わる仕事をし、日本と海外の架け橋になりたいです。現在はメーカーと商社を中心にみています。

V. 写真



私の 21 歳の誕生日の写真です。私はこの時、宿題が多く勉強をしており、誕生日を忘れていました。0 時になった時サプライズとしてみんながケーキをもってお祝いしてくれました。あまりに感動してしまい涙を流しました。みんながお酒をプレゼントしてくれました！！



ディズニーワールドでの奇跡的ショットです。バングラデッシュ出身の子と旅行しました！ディズニーワールドはサービスそして、日本よりも大きかったです！！！！